

ライプツィヒで経験したこと

建設社会工学専攻M1 力丸 朋子



国際会議

2014年9月2日から6日まで、ドイツのライプツィヒで第4回国際会議 Degrowth 2014 Leipzig が開催されました。この国際会議では、「環境的持続性と社会的公正のための脱成長」をテーマとした様々なセッションやワークショップが行われました。会場はライプツィヒ大学で、大学の広場には出店などが並び、お祭りのような賑わいを見せていました。私が参加したセッションは学生と大学講師のプレゼンテーションが主でしたが、傍聴者は学生から高齢の方まで様々で、意見を求められる場面では彼らが積極的に発言をし

ている姿が印象的でした。

わたしの発表内容は、ライプツィヒ東地域の敷地に対する設計の提案です。当日はパワーポイントを用いて、提案内容の説明を行いました。提案内容は、敷地周辺の問題点を考え、地域の将来を見越した持続性のあるシステムと建築についてです。セッションの最後には来場者と登壇者による議論の場が設けられ、提案者に対する講評をいただくこともでき



発表の様子

ました。
発表を終えて

今回がわたしにとって公式な場での初めての英語によるプレゼンテーションでした。英語はお世辞にも得意とはいええず、今回の海外調査で言葉の壁が一番の障壁となりました。発表に関しては予め準備をしていたためどうにかりましたが、議論の場でもいただいた意見などをすべて理解することができなかつたり、現地の学生とコミュニケーションが上手にとれなかつたりと英語が話せないことよって悔しい思いもしました。このような経験から、より知識や経験を深めるにはやはり英語は欠かせないと強く感じました。共通の言語を持つことで、自分の研究の幅を広げるためにも、これからは英語力を上げることに力を注ぎたいと思いました。

ライプツィヒ東地域

わたしは国際会議終了後も約3週間ライプツィヒ東地域に滞在し、現地調査を行いました。研究は日本の北九州と、ドイツのライプツィヒの二都市中心部における都市空間の実



上：都市農園
下：作業風景

状と都市再生の取り組みの類似性に着目し、ライプツィヒで活動を展開しているまちづくり市民団体らと連携して調査研究を進めていきました。滞在中は、関係者の方々にヒヤリングを実施したり、ライプツィヒの住人にアンケート調査を行ったりと毎日が慌ただしく過ぎていきました。また、ドイツの文化を実際に体感し、建築などもたくさん見ることができ、非常に充実した1か月間を過ごすことができました。

謝辞

最後に国際会議参加と調査研究実施にあたり、奨学金を援助していただいた明専会、現地で調査研究にご協力いただいたミンクス典子氏、大谷悠氏、関係者の皆様、プレゼンテーションおよび調査研究に関してご指導をいただいた徳田光弘准教授に厚く御礼申し上げます。